

問 題		得点率 (%)	問 題		得点率 (%)
1	問一	47	2	問一	72
	問二	14		問二	39
	問三	37		問三	60
	問四	63		問四	74
	問五	15		問五	95
	問六	89		問六	96
	問七	90		問七	50
	問八	83		問八	89

最高点 2科受験者 72点
 4科受験者 92点
 最低点 2科受験者 20点
 4科受験者 24点

1 出典：村田純一『哲学 はじめの一步 楽しむ』

問一は1頁上段4行目傍線1「知覚経験」を説明する問題です。1頁上段22行目からの具体例は、1頁下段46行目でまとめられており、ここで「知覚経験」の説明が詳細になされています。よって、この箇所を使用して、記述をまとめます。なお、設問に合わせて、答案の文末は「～側面。」にする必要があります。傍線部周辺だけでなく、本文全体に目を向けることが重要です。

問二は1頁上段15行目傍線2「こうした事情」を説明する問題です。1頁上段11行目からの視覚を失った場合の具体例より、知覚の一部あるいはすべてが損なわれるなど、その程度が変わったときには新たな知覚世界で経験を再構築する必要があるということを読みとります。また、「こうした事情」はその後の文脈の中で、知覚世界の在り方が多様である理由とされています。よって、1頁上段11行目からの視覚を失った場合の具体例を一般化しつつ、理由として次の文脈に続けることのできる記述としてまとめてあることが大切です。なお、設問に合わせて、答案の文末は「～事情。」にする必要があります。具体例の一般化をどこまでできるかが問われた問題でした。

問三は1頁下段34行目傍線3「経験」を説明する問題です。傍線3は「これらの」という言葉と繋がっているので、直前の箇所に指示する内容がないか確認します。すると、1頁上段28行目「その経験は、」以降が経験についての説明になっているため、この一文を用いて、制限字数以内に収まるように抜き出します。文末が「経験。」に繋がるように注意して抜き出す必要があります。

問四は1頁下段53行目傍線4「日常生活のなかでも場合によっては、この側面が浮き上がってくる場合がある。」の具体例としてふさわしい内容を選ぶ問題です。「この側面」というのは、「いかに」に関わる感覚・感情的側面を指しています。また、1頁下段63行目から始まる具体例以降を丁寧に読んでいくと、日常生活の中でこの側面が浮き上がってくる時、私たちは2頁下段101行目「その場に居合わせ包まれているという意識」

を持つというように説明されています。よって、これらの内容が含まれている選択肢工が正解です。ほかの選択肢は、単に対象に対して感じたことを述べるにとどまり、自分も経験の一部となったということを含んでいません。

問五は2頁上段 78 行目「ただし、この場合、美しい色を見たり、心地よい鳥の声を聞いたりしている自分が楽しい気分になった、というだけではない。」について、「美しい色を見たり、心地よい鳥の声を聞いたりしている自分が楽しい気分になった、」という具体例では足りないと言われる理由を説明する問題です。「この場合」というのは、2頁上段 73 行目「対象だけではなく、それを経験している自分自身のあり方もまた経験していることに含まれている」場合を指しています。したがって、「美しい色を見たり、心地よい鳥の声を聞いたりしている自分が楽しい気分になった、」という表現に足りないのは、2頁上段 96 行目「茜色の醸し出す雰囲気の中に自分も含まれている、あるいは、鳥の鳴き声を作り出す清々しい環境の中に自分も含まれている」という要素ということになります。設問に合わせて、答案の文末は「～から。」にする必要があります。設問の指示から離れてしまった答案が、多く見受けられました。

問六は空欄AからDに適切なことばを入れる問題です。Aにはイ、Bにはア、Cにはエ、Dにはウが入ります。

問七は漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。

問八は本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。1 頁下段 46 行目から始まる段落とほぼ同一のことが書かれているウが正解です。アは危機的状況と日常生活とを混同しているので誤り、イは「危機に瀕して日常性が成り立たなくなったときにのみ」、エは「絶えず知覚経験を意識することができる」が本文の内容と食い違うため誤りです。

② 出典：佐川光晴『駒音高く』

問一 「プロの棋士になって優秀な兄と肩を並べたいから」など、裏返しに書いた解答も許容しています。また、「勉強でかなわない」だけだと、二人とも学力不振ともとれるので、無得点としました。また、「引目」「肩を並る」など慣用句の誤答も多かったです。慣用句は、知識として持っているだけではなく、使ってこそ意味があります。日常的に使いこなしてみたいと思います。

問二 心情を問うているのに、「～から。」で答えてしまったものも散見されました。傍線部を含む段落に「授業中⇒将棋」「将棋中⇒授業」という対比があることに気づいていない解答もそれなりにあり、将棋に対する不安だけしか書かれていないものもありました。

問三 「2 学期の期」、「祐也は両親」の誤答が多かった。「二学期の期」は四十字未満なので設問の条件に当てはまりません。また、「祐也は両親」は正答部分の一部です。設問に対する注意力が欠けた生徒が散見されました。

問四 主人公の行動から、その心情を考える問いです。苦しい状況の中で、父の姿を見つけたとき、どのような心情になるかを考えるとよいでしょう。

問五 語句問題です。正答率が高く、よく準備ができていたことがうかがえました。

問六 主人公の行動から、彼のおかれた状況を考え、心情を導き出せば答えることができたとします。

問七 前半の「兄と肩を並べる手段」という部分はよくできていた。しかし、後半部の「父のアドバイスで、気楽に将棋をやっていこうと思った。」など他者からの働きかけでそのような気持ちになったという解答が目立った。ここでは、夜中に、将棋に向き合ったときに自分で自分の本当の気持ちに気づいたという形にしてほしかった。

問八 本文の内容に合うものを選ぶ問題です。本文の随所に書かれた父の人柄を整理して考えれば正解を選べます。